

# 夕焼け



台風がすぐそこまで来ている。紫色や青色、水色と黄色、それにはだいたい色や赤色が混じったみたいな空を見て、晴子は思った。

昔、風のすごく強い日に、マンションのベランダでお父さんがいったんだ。

「このきれいな夕焼けは、台風のあいさつみたいなものなんだよ。ちょっと通りますよ、しばらく空が見れないだろうから、この夕焼けを心にしまっつてしばらくがまんしてね、って。で、通りすぎたあとはまた、散らかしちゃってごめんね、これでご勘弁を、ってきれいな夕焼けを置き土産みたいに残していくんだよ」

わたしはたぶん五才くらい。風が顔に当たるのがいやで、

お父さんの胸にぎゅつと顔を押し当ててた。すると風の音か、お父さんの心臓の音かわからないけど、ザーザーと鳴っていて、だんだん、だんだん、眠たくなってきちゃって、大きなあくびをしたのね。そしたら、涙がスローモーションみたいに、ゆっくりあふれてきて夕焼け空がプリズムみたいにキラキラ光ったの。

きつと眠っちゃったんだろうな。その後のことは覚えてないの。もしかしたら全部夢だったのかな？ あのとときみたいな夕焼けがもう一度見たくて、台風が近づいているというニュースを見るたびワクワクした。雨が降り出したら見えないし、いつもいつもきれいな空なんてわけにはいかないけど、カーテンを少し開けて、少しでも光がささないかなって探しちゃう。

絵・入村定子

たなかしん